

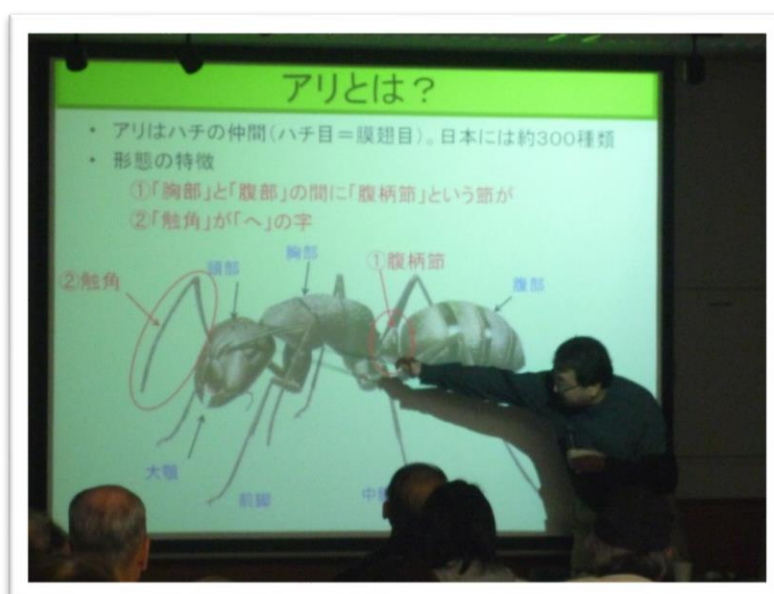
2018年3月3日(土)

図書館講演会「アリの多様で不思議な社会生活」開催報告

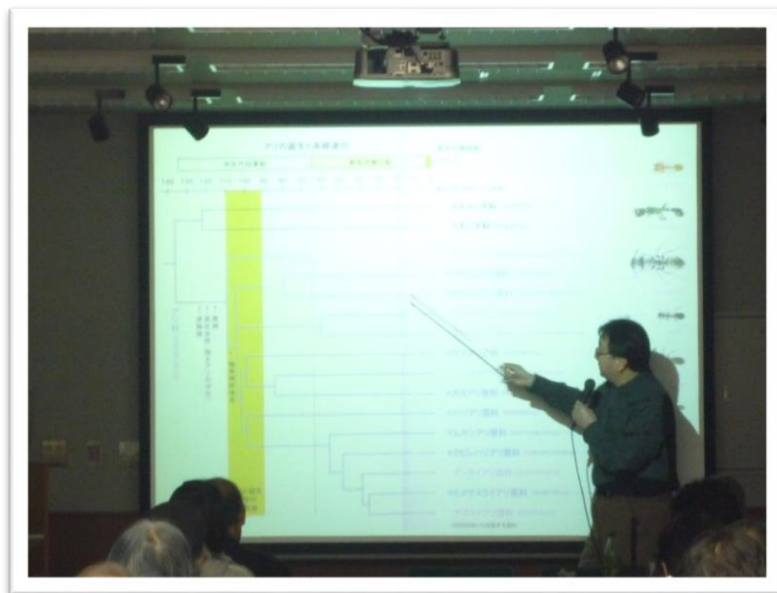
「アリの多様で不思議な社会生活」と題し、東京農工大学准教授 佐藤俊幸先生にご講演いただきました。行動生態学の研究をされている佐藤先生は、アリ研究の第一人者です。知られざるアリの生態や生活についてお話いただきました。



昆虫のからだは頭部、胸部、腹部から成っていますが、アリの場合は胸部と腹部の間に「腹柄節」と呼ばれる部分があるのが特徴です。アリとほかの昆虫との違いはこの「腹柄節」があるかどうかだそうです。



アリは進化の過程で様々な種に分かれていきました。種によって生息地やからだの特徴に違いがあります。府中市にある農工大の敷地内でも30種類以上のアリを見つけられるそうです。さらに種類によって、巣の構造や子孫の残し方などにも大きな違いがあることには驚きました。



日本でよく見られるクロオオアリを例に、アリの巣が誕生してから終わるまでの解説がありました。一匹の女王アリを中心に、働きアリたちが幼虫の世話をし、エサを運び、大きな巣をつくりあげていきます。アリ同士が役割を分担し、支え合って、巣という社会を成立させているんですね。



この夏、話題になったヒアリについても触れました。むやみに駆除しようとする则在来のアリがいなくなってしまう、ヒアリが定着しやすくなってしまう可能性もあるそうです。正しい知識を持っておきたいですね。



質疑応答では鋭い質問が多数あがり、参加者の熱意が伝わりました。アリについての知識を得る貴重な機会として、また生き物について学ぶことの面白さを改めて実感できる時間になりました。